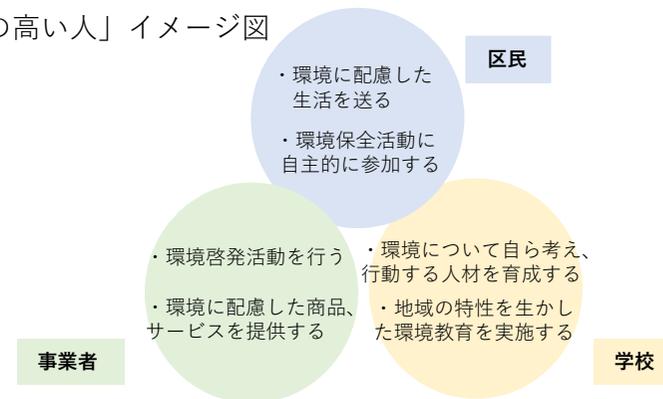


1. 環境教育の全体像

区では、持続可能な社会を構築していくため、環境に関する課題解決に必要な能力・態度を身に付けていく「人づくり」を中心に環境教育を推進している。
環境について学ぶだけでなく、自らが環境保全のために行動し、さらには次世代を育成する指導者として活動できるような「環境力の高い人」を育成していくことを目標としている。
【板橋区環境基本計画2025 基本目標5「環境力」の高い人材の育成】
環境教育を効果的に進めていくために、区民や団体、事業者、学校等各主体が役割を分担しつつ、協働・連携しながら区全体の環境保全活動の活性化を図っていく。
【板橋区環境基本計画2025 基本目標6パートナーシップが支えるまちの実現】

「環境力の高い人」イメージ図



2. エコポリスセンターの取り組み

エコポリスセンターでは「知る・気づく」→「考える・学ぶ」→「行動する」→「交流する・育てる」のサイクルの確立に向けて、各種イベントや環境講座、指導者養成事業等を実施している。

(1) 環境啓発事業 知る・気づく

環境啓発事業は、環境活動について「知る」機会の提供と、様々な環境課題について「気づく」機会を提供することを目的とし、主に区の資源や自然環境などを踏まえた事業を実施している。

例) 環境なんでも見本市、エコライフフェア、緑のカーテン普及啓発事業等

(2) 環境学習事業 考える・学ぶ

未就学児から大人まで幅広い世代を対象に実施。座学だけではなく、ワークショップやフィールドワークを取り入れ、楽しみながら環境について「学ぶ」機会を提供している。

例) 出前授業、かんきょう観察事業、夏休みエコスクール等

(3) 指導者養成事業 行動する

実践的な環境活動を家庭や学校、地域など様々な主体へと展開する環境学習の指導者の育成を通して区民に「行動する」きっかけを提供する。

例) 小中学校・保育士・児童館への研修、板橋エコみらい塾等

(4) 各主体の育成支援事業 交流する・育てる

個人・環境団体・企業・学校など、各主体の活動機会を提供するとともに、各主体の環境活動に関して積極的な支援と「交流の場」を提供する。

例) エコライフサポーター（ボランティア）、エコポリ・ゼミナール、環境なんでも見本市（見本市実行委員会）



(写真左上) 環境なんでも見本市、(右) 出前授業、(左下) 板橋エコみらい塾

3. 環境教育プログラム

環境教育プログラムは、板橋区独自の情報や特性を踏まえ、小中学校教員、保育士及び区民等により開発された体験的な環境学習プログラムである。環境教育・環境学習を行う際にプログラムの活用を高めることができるよう、「進め方」「指導上の注意点」「使用するもの一覧」「ワークシート」などをわかりやすく掲載し、区のHP上で公開している。

環境教育推進協議会（毎年開催）で実践状況の報告を行い、委員から寄せられた意見を基に、適宜内容を更新している。環境教育推進協議会の中では、知識伝達型の授業ではなく、自ら考え、意見を交換しながら実践的な学びを体験することで、行動変容を促す取り組みにつながることを期待されている。

令和6年9月現在、84のプログラムが活用されており、実施にあたっては、エコポリスセンターのスタッフが出前授業の一環として実施したり、教員自らプログラムを実施するなど、区の環境教育が実践できる土壌が作られている。

なお、令和5年度は、区立保育園・幼稚園及び区立小中学校の83.8%が環境教育プログラムを実施したとの回答があった。

図1：環境教育プログラム利用校（園）の推移

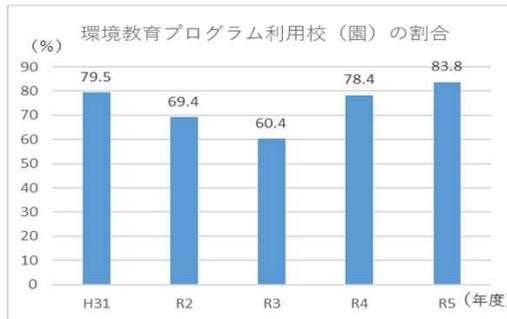


表1：区立小中学校における環境教育プログラム活用ランキング（過去5年分上位5位）

小学校		中学校	
順位	プログラム名	順位	プログラム名
1	緑のカーテンを作ろう	1	緑のカーテンを作ろう
2	ごみはどうやったら減るんだろう	2	地球温暖化ってなんだろう
3	地球温暖化ってなんだろう	3	エネルギー使用量を調べてみよう
4	身近な自然を調べてみよう	4	教室のエアコンの使い方について話し合おう
5	緑のカーテンってすごいね！	4	食糧不足から環境問題について知ろう

【環境教育プログラムの活用例】地球温暖化ってなんだろう（高島第一中学校）



1. 地球温暖化とは（導入）



2. 水の膨張実験
温暖化により海面上昇が引き起こされることを知る実験



3. 温暖化が引き起こす問題を紹介
気象問題、生態系の崩壊など

【順位予想シート】
 どれがCO2を多く減らせるか、多い方から1～5位まで順位を予想してみよう！
 ※人間1人が1年間に、はき出すCO2の量は、約360kgです。

予想	NO.	地球温暖化を減らす省エネ行動	1年間でCO2を減らす量	1年間の節約率	評価
1	1	消費の多いものの買い物を少なくし、残っている期間も長く使う	知識不足	低	低
2	2	自転車や徒歩を電車やバスに比べる	知識不足	低	低
3	3	ビデオカメラは充電式で済ませる	知識不足	低	低
4	4	節電アンペア数のつけっぱなしを1日1時間減らす	知識不足	低	低
5	5	家族が同じ部屋で寝るようになる	知識不足	低	低
6	6	掃除機をかける回数減らす	知識不足	低	低
7	7	シャワーの時間を短くし、1日1分減らす	知識不足	低	低
8	8	季節にあわせてエアコンの温度設定を調整する	知識不足	低	低
9	9	外出時には公共交通機関の乗り換えを促す	知識不足	低	低
10	10	通勤や買い物に自転車や公共交通機関を利用する	知識不足	低	低

※参考：東京都庁 HP「エコスタイルプランニングより」

4. 温暖化防止対策について
省エネ行動についてクイズを実施

【授業の振り返り】 （指導者より）

・日常生活と地球温暖化の問題が結びついていることがわかり、環境について関心を高める時間になった。

（子どもたちの意識の変化）
・地球温暖化を防ぐ行動を心がけるようになった。

（授業見学者より）
・簡単な言葉に置き換えれば保育園等にも活用できる内容だと感じた。

4. 環境保全活動を行う各主体との連携

質の高い環境教育の機会を提供していくために、区民・環境団体や大学、企業等との連携・協力体制を強化し、各主体が持つ知識やノウハウ、人材等を相互に活用することで、区全体の環境保全活動の活性化を図る。

(1) 区民・環境団体との連携

・環境なんでも見本市

環境団体及び企業、大学等がエコポリスセンター館内にて展示やワークショップを実施。開催にあたっては、実行委員会形式を採用し、区民・環境団体等と協働してイベントの方向性や運用方法について決定している。

(2) 大学との連携

区と協定を結ぶ大学（東京家政大学）や専門学校（日本ペット&アニマル専門学校）において、エコポリスセンターが実践を踏まえた授業を実施している。また、エコポリスセンターが区内の大学祭（大東文化大学）に参加し、大学祭を訪れた学生や区民に対し、環境に関する普及啓発活動を実施した。

(3) 企業との連携

環境イベント（エコライフフェア夏、環境なんでも見本市）について、今までに出展実績のない新規企業へ呼びかけを行い、出展（展示やワークショップ）へとつなげた。また、令和5年、6年度は無印良品板橋南町22にてエコライフフェア夏を開催した。

エコポリスセンター館内では、令和6年度から企業の環境に配慮した取り組み等を展示している。

(4) 各主体間の連携（環境団体・大学との連携）

・ユース環境活動発表会（隔年開催）

環境団体（NPO法人センスオブアース）と大学（東京家政大学）が主体となってサポーターチームを発足し、若者の環境活動に関する取り組みを発信する場を提供。

令和5年度は区内の保育園及び学校（小中学校、高校、大学）12校（園）が、各自で取り組んでいる環境活動について発表し、共有を行った。



(写真上) 企業展示

(写真下) ユース環境活動発表会

【参考】出前授業の実践例

エコポリスセンター職員や環境団体等が、区内の保育園・幼稚園、小中学校、地域等へ出向いて、講座を通して環境学習の機会を提供している。

・かぜとなかよし

風力は太陽光とならぶ身近な自然エネルギーであり、地球温暖化防止に有効な再生可能エネルギーである。風を使ったおもちゃ作り（風車や紙コプター）やシャボン玉遊びを通して、風の力や音、方向を体感し、自然エネルギー源としての風の存在を学ぶ。

・大豆ってすごいぞ

食料自給率が低く、9割以上を輸入に頼る大豆について、大豆の栽培や味噌作りの経験を通して、食料自給率の問題や地産地消の大切さを学ぶ。また、輸入の際に排出される二酸化炭素について学ぶことで、地球温暖化の問題へと繋がっていることを子どもたちに実感させる。



(写真上) かぜとなかよし

(写真下) 大豆ってすごいぞ

【出前授業の実施件数】 令和5年度実績：104件 令和4年度実績：92件

5. 学校教育における環境教育の取り組み

(1) 学習指導要領に基づいた環境教育の推進

平成29年告示の幼稚園教育要領、小学校、中学校学習指導要領、平成30年告示の高等学校学習指導要領においては、環境に関する教育の充実が図られている。各学校では、児童・生徒の発達段階や学校や地域の実態に応じて、各教科等で現代的な諸課題を解決するために必要な資質・能力を育成する。

(2) 保幼小中一貫の環境教育カリキュラムの充実と活用促進

板橋区では、平成20年に「板橋区環境教育カリキュラム」を策定し、平成31年に「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」の内容を改定し、区内全教員に配布した。各学校等では、総合的な学習の時間をはじめ、各教科や道徳の時間、特別活動などを通じて、環境教育の系統的な推進を図っている。

(3) 環境教育の学習方法

①環境教育ハンドブックの作成、配布・活用

指導者に対し、環境教育の企画・立案、準備などに役立つ情報を分かりやすく提供する環境教育プログラムを用意している。「板橋区環境教育ハンドブック」は、環境教育・環境学習を行う際に、教員などの指導者が活用しやすいように、プログラムの進め方や時間配分、使用する道具やワークシートなどを掲載している。現在、環境教育プログラムはホームページから閲覧が可能である。

②環境教育教材・学習資料の作成、配布・活用

環境教育カリキュラムに基づく学習活動を各学校で効果的に実施するため、小学校3年生から中学校9年生までを対象とした「テキスト『未来へ』」及び「教師用指導書」を作成し、各校に配布している。自然や文化、産業も含めた身の回りのすべてを環境と捉え、その「多様性」に気付き、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を深め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成することをめざしている。

③外部人材の活用

エコポリスセンターの指導員や登録団体、区職員、事業者、教育機関など外部の人材を、ゲストティーチャーやインストラクターといった指導者として招き、環境教育の充実を図っている。

④環境教育におけるICTの活用

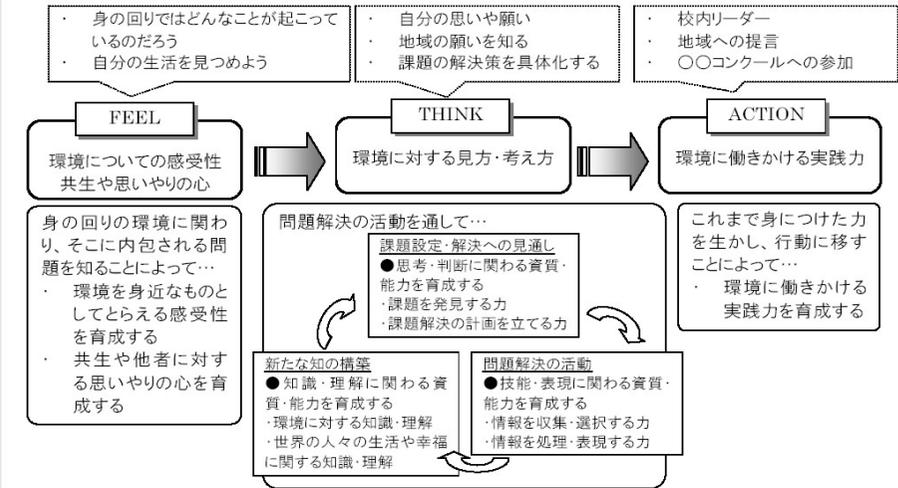
学習者用端末や電子黒板等を活用し、国内外の事業者や学校と交流し、インタビューを行ったり、意見交換を行ったりすることで、環境の保全や持続可能な社会に構築に向けて主体的に考える態度の育成を図っている。

(4) 環境教育重点校（ユネスコスクール）での環境教育の充実

校庭にビオトープを設置し、クロメダカの放流、バタフライガーデンづくり、巣箱の設置など、児童自身が環境を創り上げている。また、学校敷地内にある竹林を生かした学習やしいたげ栽培の活動を通して、年間を通した自然の再生サイクルを学ぶとともに環境を守る意識や態度を育てている。

●板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの概要

- 身の回りの環境と同時に地球規模の環境について考え、知識・理解を深めるとともに、よりよい環境づくりの主体としての技能や態度を身に付けさせる。
- 環境に関する学習を中心として、「持続可能な社会の構築」に資するとともに、他者に対する「思いやり」の気持ちを育み態度化を図る学習とする。
- 就学前（4歳児）から中学校3年生までの11年間を見通した、保幼小中一貫型のカリキュラム構成とする。



オンラインでの意見交流



校庭のビオトープ